



# 最優秀賞

設計部門



## 愛知県精神医療センター ～自然環境を活かしたランドスケープ～

株式会社 現代ランドスケープ

幡 知也・西辻俊明

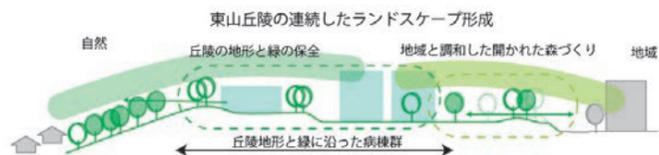
株式会社 久米設計

矢永勝美・加納史章

### 地域・自然とともにある

#### 愛知県精神医療センターのランドスケープ

県の精神科医療体制の中核病院として、その役割を担ってきた愛知県精神医療センターは、既存建物の老朽化・狭隘化に伴い現地全面建て替えが計画された。



設計にあたっては、精神医療が地域社会と隔絶された世界ではなく、日常の延長線上にあるものと捉えなおし、新病棟を取り巻く屋内外の空間に、既存樹林や地形等の豊かな自然環境、周辺地域の景観との調和等を図りながら、これら環境特性を活かした“社会との接点となる場”をつくることで、患者のリカ

### 作品概要

作品名—— 愛知県精神医療センター  
～自然環境を活かしたランドスケープ～  
所在地—— 愛知県名古屋市千種区徳川山町  
発注—— 愛知県精神医療センター  
設計—— 株式会社 現代ランドスケープ・株式会社 久米設計  
施工—— 株式会社 熊谷組  
設計期間—— 2010年10月～2013年3月  
施工期間—— 2014年3月～2018年8月  
規模—— 約4.86ha  
主要施設—— 交流テラス、光の庭、彩りの森、やすらぎの庭、迎いの庭、ゆしみの庭など

### 作品評

本作品は、県立精神医療センターの建替えと機能強化に伴い、病棟を取り巻く屋外空間を対象に、患者の社会復帰に役立つ先進的な医療環境の創出に向けたランドスケープ設計と現場監理を行ったものである。  
この作品の中で応募者は、医療施設における良好な環境づくりについて、明確な方針を挙げ、その空間像を既存樹木の活用、せせらぎ等の水辺空間の整備、眺望の確保、適度に分けられた庭づくり、患者のストレスを軽減する緑の演出などの多岐にわたるランドスケープデザイン手法を用いて実現している。また、説明資料は設計の考え方や手法をわかりやすく伝える工夫がなされ、こうしたプレゼンテーション能力の高さを含む総合力が審査員全員から高い評価を受けた。医療施設の良好な環境づくりは、高齢化が進行する我が国においてランドスケープが積極的に関わっていくべき分野であり、この作品はその発信力を有している。

設計部門



①開放的な芝生の広がりや保存した既存樹の木陰 ②東山丘陵の自然に寄り添う病棟 ③丘状地形を活かした眺望スポットの創出 ④親しまれてきた樹齢80年の桜の保全。丘陵地形を活かした伸びやかな地形造形と交流空間 ⑤彩りや木漏れ日、雨水活用の水景から自然を感じながら憩えるサークルベンチ ⑥雨水を集り活用したエコ水景 ⑦、⑧、⑨既存の自然を活かし、閉鎖的な生垣を取り払うことで、地域に開きつながりを得た彩りの森のランドスケープ

バリーをサポートする先進的な医療環境の実現をめざした。

#### 地域の環境財産を最大限に活かしたランドスケープ形成

- ・東山丘陵の豊かな自然環境の一部として、敷地内の既存雑木林を保全・充実させ、東山の自然景観の連続的なランドスケープ形成を図った (②)。
- ・敷地の広がりや丘陵の高台立地を活かし、遠景の景観や空へとつながる広がり確保するなど、明るく開放的な空間イメージを形成した (①③④)。

#### 周辺地域社会に開かれた交流スペースの形成

- ・社会復帰の段階に応じた地域の人々との交流やふれあいが可能となるよう、催しのできる交流テラスや、散策・レク

リエーション等の楽しめる場を設けた。地域の人たちが気軽に利用できるよう、視線を遮る樹木や施設を整理し、見通しの良い環境づくりを行った (①④⑦)。

#### 患者の安心感を高め感性に働きかける環境形成

- ・患者の状況に合わせて居心地の良い場を確保できるよう、ひとり、家族、社会的空間といった多様なスケール感を大切にした細やかな植栽や地形造形による環境整備を行った (③④⑤)。
- ・心地よい陽射しや柔らかな木陰、風や水の感触、木々の音や野鳥の声など、自然の様々な現象を活かした医療環境を創出するランドスケープデザインを行った (⑥⑦⑧⑨)。